

第73回 「社会を明るくする運動」うきは市青少年弁論大会

最優秀賞

つくる責任・つかう責任

ごみを減らすために

浮羽中学校 1年
瀧内 光莉



みなさんは、「SDGs」という言葉を聞いたことがありますか？今とても話題になっている言葉なので、知っている人がほとんどだと思います。「SDGs」とは、持続可能な開発目標のことです。「持続可能な社会」とは、将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発が行われる社会のことです。そのような社会の実現のために、世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題といった課題を、世界の

みんなが2030年までに解決していこうという、計画・目標のことです。私は、このSDGsで掲げられている17の目標の中から、12番目の目標、「つくる責任・つかう責任」を選び、その中でもごみについての問題を中心に考えました。なぜこの目標を選んだのかというと、インターネットで「ごみの最終処分場の寿命はあと20年」という記事を見つけて、それはどういうことなのだろうか？と気になったのがきっかけです。

まず私は、今の日本でどのくらいの量の食品が捨てられているのかについて調べました。私は、「食品は食べられないものだからそんなに捨てられていないだろう。」とっていました。しかし、現在の日本では、生産されている食品の中で年間522万トンもの食品が捨てられています。522万トンというと、日本国民、およそ1億2450万もの人々が、毎日まいにち、お茶碗一杯分のゴミを捨てているのです。

なぜ食べられる食品が捨てられているのでしょうか。今、話を聞いている人の中にも、私と同じ気持ちになった人がいると思います。

それは、食べ残し、賞味期限や消

費期限を過ぎたもの、食べられる部分を捨ててしまうことで、ゴミになります。みなさん、食べ残しをしていますか？実は私も、嫌いなものだからと言って食べ残しをしたことがあります。おそらく私だけではなく、たくさんの方が食べ残しをした経験があると思います。ですが、食べられるものを捨ててしまうのは、もったいないと思いませんか？私もこんなに食品が捨てられていることを知り、食べ残しをした自分に後悔しました。もし世界中の人が食べ残しをせずに、食品を捨てなければ、それだけでも、多くの無駄なゴミを減らすことができます。それだけではありません。いま世界では8億2800万人、つまり10人に1人が飢餓に苦しんでいるそうです。私たちが無駄な食品ゴミを減らすことが、飢餓に苦しむ人たちの助けになるかもしれません。さらに現在の世界の人口80億人と予想されています。もっと飢餓に苦しむ人が増える社会になるのではないのでしょうか？そう考えると、今の状況は「持続可能な社会」と言えるのでしょうか？

調べてみると、福岡県でも食品ゴミを減らす取り組みが行われていることがわかりました。

福岡県では「食品ロス削減を推進する社会」を目指し、様々な取り組みを行っています。例えば、「食べも

の余らせん隊」や「食品ロス削減ガイドブック」を作り、呼びかけを行っています。特に、「食べ物余らせん隊」とは、飲食店や宿泊施設などで、ご飯や料理の量の調節、食べ残しの持ち帰りへの対応などたくさんの方の取り組みをして、少しでも食品ゴミを減らせるように頑張っています。

私たちに「持続可能な社会づくり」のために身近なことからできることではないのでしょうか？実は、私たちにでもできることはたくさんあるのです。例えば、食べきれないほどの食品を買わないようにしたり、すぐに食べる食品は賞味期限や消費期限が短いものを買ったりすることがあります。スーパーに並んでいる牛乳のコーナーには「手前取り」と書かれた札がありますが、つい、消費期限の長い奥の新しい牛乳を手にとってしまうませんか？

「SDGs」は国連サミットで設定された目標ですが、当事者は私たち「ひとりひとり」です。「ひとりひとり」がこのことを意識して行動に変えていくことが持続可能な社会の実現に向けた第一歩です。

より良い社会づくりのために「ひとりひとり」がその第一歩を踏み出しましょう。